

上越教育大学スタンダード

事項	Ⅰ 教員として求められる使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項	Ⅱ 教員として求められる社会性や対人関係能力に関する事項	Ⅲ 教員として求められる幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項	Ⅳ 教員として求められる教科等の指導力に関する事項	Ⅴ 新しい時代に求められる教養に関する事項
到達目標	A 教育に対する使命感や情熱を持ち、常に子どもから学び、共に成長しようとする姿勢が身に付いている。 【教育実践力】 【学び続ける力】	A 教員としての職責や義務の自覚に基づき、目的や状況に応じた適切な言動をとることができる。 【教育実践力】	A 子どもに対して公平かつ受容的な態度で接し、豊かな人間的交流を行うことができる。 【実践力】 【人間力】	A 教科書の内容を理解しているなど、学習指導の基本的事項（教科等の知識や技能など）を身に付けている。 【基礎力】	A 異なる国や地域の伝統や文化を理解し、互いに尊重し合うことのできる資質・能力を身に付けている。 【人間力】
	B 高い倫理観と規範意識、困難に立ち向かう強い意志を持ち、自己の職責を果たすことができる。 【教育実践力】	B 組織の一員としての自覚を持ち、他の教職員と協力して職務を遂行することができる。 【実践力】	B 子どもの発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、適切な指導を行うことができる。 【思考力】 【実践力】 【教育実践力】	B 板書、話し方、表情など授業を行う上での基本的な表現力を身に付けている。 【基礎力】	B 人文科学、社会科学、自然科学に関する資質・能力を身に付けている。 【基礎力】 【思考力】 【実践力】
	C 子どもの成長や安全、健康を第一に考え、適切に行動することができる。 【教育実践力】	C 保護者や地域との関係者と良好な人間関係を築くことができる。 【人間力】	C 子どもとの間に信頼関係を築き、学級集団を把握して、規律ある学級経営を行うことができる。 【実践力】 【人間力】 【教育実践力】	C 子どもの反応や学習の定着状況に応じて、授業計画や学習形態等を工夫することができる。 【実践力】 【教育実践力】	C 芸術やスポーツなどに関する資質・能力を身に付けている。 【基礎力】 【思考力】 【実践力】
	D 反省的実践を営む基本的な姿勢を身に付けている。 【学び続ける力】	D 地域社会の一員として、地域や学校の各種行事やボランティア等に参加し、その責務を果たすことができる。 【人間力】	D 子どもの実態や学校の教育課題を踏まえて、結果や成果を意識しながら学級経営の評価を行うことができる。 【思考力】 【実践力】 【教育実践力】	D 全体計画及び年間指導計画の作成に当たっては、学校における全教育活動との関連の下に、教育活動を創造し、展開するための基本的事項を身に付けている。 【実践力】 【教育実践力】	D より良い新しい時代の創造に向かって行動することのできる資質・能力、さまざまな場面で生じる人権問題や倫理的問題に対処する資質・能力を身に付けている。 【実践力】 【人間力】

上越教育大学スタンダードは、「Ⅰ教員として求められる使命感や責任感、教育的使命等に関する事項」、「Ⅱ教員として求められる社会性や対人関係能力に関する事項」、「Ⅲ教員として求められる幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項」、「Ⅳ教員として求められる教科等の指導力に関する事項」、「Ⅴ新しい時代に求められる教養に関する事項」の5つの事項とⅠからⅤの各事項に示されている20の到達目標から構成されている。

このうちのⅠからⅣまでの事項における16の到達目標は、上越教育大学が上越・妙高地域と協働で設定したものである。いわゆる「実践的指導力の基礎」の内実であり、「採用当初から教科指導、生徒指導等を著しい支障が生じることなく実践できる資質能力」でもある。

Ⅴについては、教員としてだけでなく人間として求められる事項を付け加えたものである。

上越教育大学スタンダード・確認指標

事項	Ⅰ 教員として求められる使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項	Ⅱ 教員として求められる社会性や対人関係能力に関する事項	Ⅲ 教員として求められる幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項	Ⅳ 教員として求められる教科等の指導力に関する事項	Ⅴ 新しい時代に求められる教養に関する事項
確認指標	A 誠実、公平かつ責任感を持って子どもに接し、子どもから学び、共に成長しようとする意識を持ち指導に当たることができるか。	A 挨拶や服装、言葉遣い、他の教職員への対応、保護者に対する接し方など、社会人としての良識や基本的なマナーが身に付いているか。	A 親しみをもった態度で、子どもの声を真摯に受け止め、子どもの健康状態や性格、生育歴等を理解し、公平な態度で接することができるか。	A 教科書の内容を理解し、教科の学習内容を理解しているとともに、主体的に教材研究を行い、それを活かした学習指導案を作成することができるか。	A 異なる国や地域の伝統や文化を理解し、誰に対しても平等に接することができるか。
	B 教員の使命や職務についての基本的な理解に基づき、困難な状況にあっても、たくましく自己の職責を果たそうとする姿勢を持っているか。	B 学校組織の一員として、他の教職員の意見に耳を傾け、協調性や柔軟性を持って、自らの職務を遂行するとともに、校務の運営に当たることができるか。	B 社会状況や時代の変化に伴い生ずる新たな課題や子どもの変化を、進んで捉えようとする姿勢を持っているか。	B 板書や発問、的確な話し方など基本的な授業技術を身に付けるとともに、子どもの反応を生かしながら、集中力を保った授業を行うことができるか。	B 人文科学、社会科学、自然科学に関する基礎的な知識を身に付け、たえずその知識を更新しようとしているか。
	C 子どもの成長や安全、健康管理に常に配慮して、具体的な教育活動を組み立てることができるか。	C 保護者や地域の関係者の意見・要望に耳を傾けるとともに、連携・協力しながら、教育活動を推進しているか。	C 子どもの特性や心身の状況を把握した上で、教育力のある学級集団の育成をめざした学級経営案を作成し、それに基づく学級づくりをしているか。	C 基礎的な知識や技能について反復して教えたり、板書や資料の提示を分かりやすくするなど、基礎学力の定着を図る指導法を工夫したりすることができるか。	C 芸術やスポーツなどに関する知識や技能を身に付け、生活に生かそうとしているか。
	D 自らの教育実践を内省し、成長の足跡や課題を「教職キャリアファイル」に記述するなど、実践と省察の往還ができるか。	D 地域社会の一員として、各種行事やボランティア等に参加し、その責務を誠実に果たし、自らの成長の足跡を教職キャリアに位置づけることができるか。	D 子どもの実態や学校の教育課題を把握した上で、成果の確認や公表の場面を位置づけた学級経営案を作成し、自ら学級経営を評価しようとする姿勢をもっているか。	D 地域や学校、児童の実態等に応じて、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習、探究的な学習、児童の興味・関心等に基づく学習など創意工夫を生かした教育活動を構想し発表することができるか。	D より良い社会の創造に向かって行動し、さまざまな場面で生じる人権問題や倫理的問題に敏感に対応しているか。

確認指標は、上越教育大学スタンダードで示されている20の到達目標を卒業段階で確認するための具体的な指標である。本学では、「教職キャリアファイル」や「教職実践演習」等で確認するために設定している。